

岡山勝廣 後援会だより



創ろうみんなに住みよい六ヶ所村を

第18号



平成20年9月

発行元 岡山勝廣後援会 〒039-3215 六ヶ所村大字倉内字笹崎 1031-11

TEL 0175-74-2557 (FAX兼)

ホームページ: <http://www.kokayama.com/>

メールアドレス: koka@jomon.ne.jp

トピックス

1・岡山勝廣 一般質問に立つ

原子力エネルギー分野の

学生・研究者の研究開発支援について

(1~2ページ)

2・全農酪農経営体験発表会

庄内 五十嵐泰土さん 優秀賞(2ページ)

平成20年9月 六ヶ所村議会定例一般質問

原子力エネルギー分野の学生・研究者の研究開発支援について

岡山議員

今日現在、六ヶ所村はエネルギーの供給基地として、国内外に認知されているものと理解しています。

原子燃料サイクル施設をはじめ、世界7極と共同で研究開発するITER計画と並行して取り組まれるプロジェクト「幅広いアプローチ」では、国際核融合エネルギー研究センターが立

地されるなど、我が国のエネルギー政策の根幹を担っております。

このように、最先端技術の施設を集積する本村で、今後、国内はもとより、海外から多数の大学や産業界などの人材が来訪して研究開発活動が行われるものと考えております。

これにより、本村の教育や文化の向上にも期待でき、村の振興発展の重要な鍵となりえるのでは、と考えております。

特に来年完成予定の国際核融合エネルギー研究センターが科学技術に対する国際的な研究開発を進める上で、本村としても大学や産業界などの、研究・人材育成機能の整備に取り組む必要があると思います。

最近、大学生が来訪して、原子力分野に関連する様々な調査や交流活動を行っておりますが、大学生との交流の機会が増える事により、教育文化面での向上が図られるものと思われま

質問

村の振興発展は、人材育成が重要でありますので、大学生及び研究者の宿泊機能を備えた研修センターなるものを整備するお考えは無いか、お伺い致します。

吉村長

宿泊機能を備えた施設については、平成4年に大石総合運動公園入口にありました旧PRセンターを譲り受け、宿泊できる施設として改修し、利用したこともありましたが、老朽化により解体を余儀なくされたところでもあります。現在は、旧村立二又小学校を、同様の機能を持たせた施設として運用しておりますものの、議員お尋ねのような、来訪する研究者や学生への提供には適さないものと考えております。

むつ小川原地域における人材育成、教育インフラの整備方策については、「新むつ小川原開発基本計画」において、「環境・エネルギー」を重点産業分野と定め、関連する研究施設などの立地を図り、大学や公的試験研究機関との交流を促進するとともに、研究開発を進めるにあたって欠くことのできない人材の育成や産学官連携の拠点としての機能の整備を目指すこととされており、村としては、これらのことから、村としては宿泊機能を備えた施設は必要であるとの認識のもと、青森県における核融合及び原子

力関連のプロジェクトや産学官連携による人材育成、教育等の実施状況等も踏まえて対応すべく、本年5月、庁内に「多目的屋内運動場・研修センター整備検討ワーキンググループ」を設置し、検討を進めているところであります。

岡山議員

再質問 研修センターでは、村民とのふれあひも出来る様な工夫も必要だと思います。

あたたかい心とあたたかい温泉で《ろっかぼっか》を活用し、大学生や研究者等の村外来訪者の方々に、おもてなしが出来ればと思います。

出来るだけ早い時期の完成を望みます。

吉村長

質問の趣旨に沿って、出来るだけ早い時期に完成出来る様に、検討していきたいと思っております。



**全農酪農経営体験発表会
庄内 五十嵐泰士さん 優秀賞**

全農酪農経営体験発表会が12日、東京大手町のJ Aホールで開かれ、庄内の五十嵐泰士さんが優秀賞を獲得しました。

全国の農協や県連が推薦した事例から書類審査、現地審査によって選ばれた6名が発表されました。「私の経営理念 牛歩確実也」と題して、既存の施設や技術を活用した和牛受精卵移植への取組、また、近隣農家と飼料工場(株)デイリーサポート吹越を設立し自給体制を整えるなど、厳しい環境の中での経営努力について報告しました。5年間の会社勤務を経て就農したことから、共通の仕事に対する姿勢にも触れ、記録の徹底が作業効率の向上と経費削減に通じると述べ、審査員の関心を集めていました。今後の課題はという質問に「地域の酪農仲間と共に歩み、酪農産業の発展に貢献してきたい」と話してくれました。優秀賞の獲得、本当におめでとうございます。

